

村長賞は清水政一さん(加茂市) 第6回景観再発見事業



者が審査にあたりました。応募作品は、木津薬師火祭り、冬の田園風景、横越大祭の花火を撮ったものなどが寄せられましたが、村長賞(賞金十万円)には、清水政一さん(加茂市)のチューリップ畑で花摘みを撮影した作品が選ばれました。しかし、テーマ別で見ると田園風景ではいい作品が揃ったが祭りでは、スケールの大きさと共に周りの街並みや見物人の様子を含めて表現した作品が欲しかった」と述べられました。

なお、村長賞以外の入賞者は次のとおりです。

一月十日に第六回景観再発見写真コンテストの審査会が、役場で開催されました。

今回の作品のテーマは「祭りと田園風景」で、村内外の三十五名の方から九十二点の応募があり、日本写真家協会の弓納持福夫先生はじめJA亀田郷みなみ、北方文化博物館、新潟フジカラー、新潟日報社などの関係

- 観光協会会長賞
田浦 新吾(新潟市)
佐藤 守(新潟市)
JA亀田郷みなみ組合長賞
村山 雅人(新潟市)
富士フィルム賞
本間 一人(横越)
新潟フジカラー賞
斉藤 光一(横越)

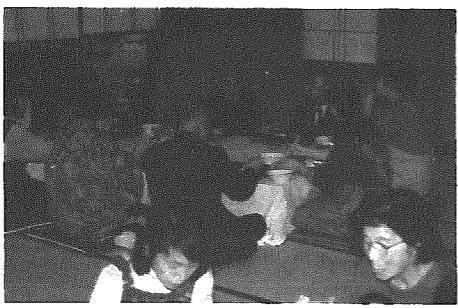
**第6回 横越村の景観再発見事業
発表展示会**

■ 期日 平成8年2月1日～2月29日
■ 会場 横越村沢海 北方文化博物館屋根裏ギャラリー
■ 時間 9:00～16:30

屋根裏ギャラリーの見学だけならば入館料はかかりません

- 優秀賞
伊藤 静雄(新潟市)
梅沢 岩一(新潟市)
高野 栄子(五泉市)
別所 春義(沢海)
入選
伊藤 静雄(新潟市)
高野 栄子(五泉市)
浪花 徹(豊浦町)
伊藤 栄蔵(沢海)
村山 雅人(新潟市)
佳作
伊丹 政雄(加茂市)
市村 文雄(横越)
野瀬山信夫(沢海)
渡辺 章(豊浦町)
佐藤浩一郎(新津市)

目に見える福祉活動 老人福祉センターで給食会



佐藤助役を囲んでの給食会

十二月十一日、村老人福祉センターで一人暮らしの老人を対象とした初の給食会が、社会福祉協議会主催により開催され十六名の皆さんが参加されました。この会は、「愛の手」のボランティア(目崎禮子会長)の方が五回程体験したボランティア活動を村民のために活かしたいと社会福祉協議会に要請。社会福祉協議会も、その意向にそって実施されました。

昼食は、愛の手ボランティア

の方々十四名による手作りの弁当が振舞われ、佐藤助役を囲んでの給食会となりました。

その後、川根谷内、小杉の婦人会十九名の方々による「九段の母」などの民謡が披露され楽しい一時を過ごしました。

参加者の感想には「長生きをしてよかった」などの声が聞かれました。

社会福祉協議会でも、これをきっかけに目に見える福祉活動を展開していく予定にしています。

小杉地区 親子ふれあいお楽しみ会開催 ～ドッジボールなどのゲームで親睦を深める～



おにぎりを握る子供達

十二月二十四日、小杉コミュニティセンターで小学校児童を対象とした小杉地区の補習部による、親子ふれあいお楽しみ会が開催されました。

これは、地域内でそれぞれ独自の活動を行っているが、子供達に合同意識をもたせる目的から年一回一同に会し、遊びを通じて交流を深めるといふもので昨年より行われています。

当日は親子百名以上が参加し、子供達を中心となって考えた缶積み、ドッジボール、宝探しな

どのゲームで盛り上がりました。また昼食には、おかか、たらこ、梅干しなどの具が用意され、子供達により実際ににおにぎりを握る体験を行い有意義な一日を過ごしました。

会にたずさわった母親からは、同じ地区、学年で集まっていまいがちな現代において「この会を通して縦のつながりができれば」という声が聞かれました。

十二月十五日、沢海の農村環境改善センターで地域公民館主催による「敬老の集い」が開催されました。

これは高齢社会を迎えた現在、老人の方々が楽しく会する場として年一度限りの敬老会では寂しすぎるということから、七年前より毎月一度集いを行い、唄を歌ったり、踊りを踊ったり、昼食を食べたりと楽しく一日を過ごしてもらおう目的で始めました。

この日は今年最後の集いということもあり、いつもより多い八十名程の参加がある中、横越



沢海地区塞の神

伝統行事を今に伝える
『塞の神』
各地区で開催

一月十五日に村内各地で伝統行事である「塞の神」が行われ、大勢の人達が集い楽しみました。沢海地区では、沢海地区青少年育成協議会(仁多見利夫会長)主催で、北方文化博物館の大型バス専用駐車場で開催されました。行事が開始された午後一時頃には、前日の夜より降り続いた

雨も止み、役員の人達が竹やわらなどで準備した高さ五メートル程の「塞の神」の前で代表区長によるお祈りが行われた後、青少年育成協議会長が点火。白煙が上がり赤い炎が勢いよく燃え広がると時折、竹の弾ける音が響き渡り、火を囲んでいたあちこちから大きな歓声があがっていました。

その後、少し弱火になったところで、大勢の親子がスルメを火にかざし香ばしい香りが漂う中、家内安全、無病息災を祈りました。

また、参加者は役員が用意した甘酒で、冷えた体を暖めました。